

平成 29 年度妙高戸隠連山国立公園連絡協議会 総会

日時：平成 30 年 3 月 22 日（木）

16:00～17:15

場所：長野市芸術館

次 第

1. 議事

（1）第 1 号議案

妙高戸隠連山国立公園管理運営計画（許認可等取扱方針）について

（2）第 2 号議案

①平成 29 年度活動報告（案）

②平成 29 年度歳入歳出決算（案）

（3）第 3 号議案

①平成 30 年度活動計画（案）

②平成 30 年度歳入歳出予算（案）

（4）第 4 号議案

役員選出

2. 意見交換

配布物一覧

【資料】

○資料1 第1号議案

- ① 妙高戸隠連山国立公園管理運営計画（許認可等取扱方針）について・・・p 1
- ② 許認可等取扱方針（概要）について・・・・・・・・・・・・・・p 5

○資料2 第2号議案

- ① 平成 29 年度妙高戸隠連山国立公園連絡協議会活動報告（案）・・・・・・p 1
- ② 平成 29 年度収支決算書（見込み）・・・・・・・・・・・・・・p 9

○資料3 第3号議案

- ① 平成 30 年度妙高戸隠連山国立公園連絡協議会活動計画（案）・・・・・・p 1
- ② 平成 30 年度収支予算書（見込み）・・・・・・・・・・・・・・p 5

○資料4 第4号議案 平成 30 年度妙高戸隠連山国立公園連絡協議会役員選出

【参考資料】

・参考資料1 妙高戸隠連山国立公園管理運営計画（許認可等取扱方針）に関する参考資料

- ① 地域意見交換会における意見概要
- ② 公園事業及び行為許可等の取扱方針（案） ※全文

・参考資料2 平成 29 年度活動報告に関する参考資料

- ① 一目五山の絶景 32 選発掘フォトコンテスト結果
- ② 妙高戸隠連山国立公園サイン統一デザイン基準（案）
- ③ ロングトレイルメインルート
- ④ エコツアーに関する報告
- ⑤ 行事の一元的情報発信チラシ

・参考資料3 妙高戸隠連山国立公園連絡協議会に関する各種資料

- ① 妙高戸隠連山国立公園連絡協議会規約
- ② 平成 29 年度妙高戸隠連山国立公園役員名簿
- ③ 平成 28 年度収支決算書
- ④ 平成 29 年度収支予算書
- ⑤ 妙高戸隠連山国立公園のビジョン・管理運営方針・行動計画（概要）

【配布物】

- ・妙高戸隠連山国立公園総合ガイドブック「大自然で楽しみたいこと 1 4 妙高戸隠連山国立公園」

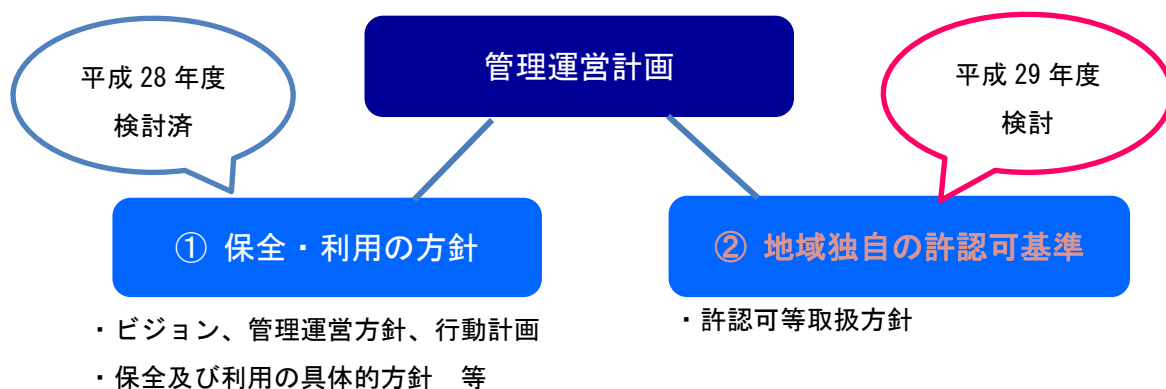
妙高戸隠連山国立公園管理運営計画（許認可等取扱方針）について

1. 管理運営計画とは

管理運営計画は、地域の実情に即して、国立公園の管理運営を協働により進めることを目的として、国立公園ごと（又は国立公園の地域ごと）に作成する計画。

当国立公園は、平成 27 年 3 月に分離独立により誕生した国立公園であるため、新たな管理運営計画が必要。（分離独立前の計画は、平成 17 年度策定）

管理運営計画への主な記載内容は、①保全・利用の方針（ビジョン・行動計画、保全及び利用の具体的方針等）、②地域独自の許認可基準（許認可等取扱方針）であり、①は平成 28 年度に検討、②は平成 29 年度に検討した。



2. 許認可等取扱方針について

国立公園における許認可の基準として、全国一律の「審査基準」が自然公園法で定められている。

しかし、日本の国立公園は、地域の自然や文化の状況に応じ多様な景観を有している。そのため、全国一律の審査基準だけではなく、各地域の実情に即した審査基準を定めることで、地域らしい国立公園の景観づくりを目指している。

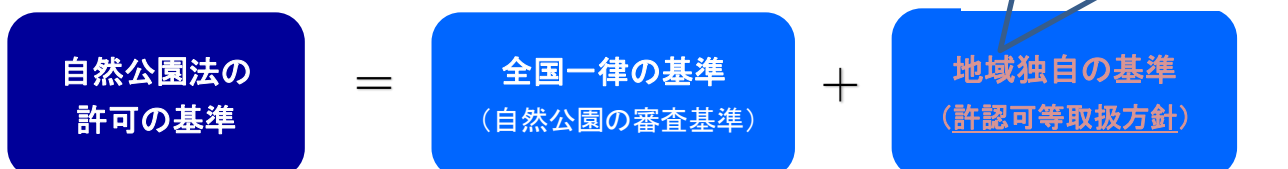
「許認可等取扱方針（正式には「公園事業及び行為許可等の取扱方針）」は、この「地域の実情に即した、地域独自の審査基準」のことであり、自然公園法の許認可に際しての審査基準の 1 つとなる。



暖かい海の国立公園



雪国の国立公園



3. 許認可等取扱方針の変更趣旨

(1) 国立公園らしい良好な景観形成のための変更

当国立公園は、国立公園であるとともに観光地であることから、良好な景観形成によって利用者の満足度を高めることを目指している。

そこで、時代背景や他国立公園の基準等を踏まえて全般的な基準の見直しを行うとともに、「配慮が望まれる事項」を新設し、良好な景観形成が図られるようにした。



【基準の見直しの例】

通景伐採は、「場所に応じて計画的に実施する」旨明記した



【「配慮が望まれる事項」の例】

「店舗等の壁面後退箇所は、誘客を促す空間とし、町並み景観の向上に資する空間とすることが望ましい」

審査基準ではないが、より良い景観形成の方向性を示したものの。

(2) 記載内容の明確化・統一化

① 基準の明確化・具体化

現行計画に記載はないが慣例的に行政指導としてきた事項や、記載が曖昧で判断に迷う事項について、記載内容の明確化・具体化を図った。

② 妙高高原地域、戸隠地域の表記の統一

現行計画は、妙高高原地域（新潟県側）と戸隠地域（長野県側）に分かれていたが、国立公園内の統一的な景観形成を目指し、両地域を統合して作成している。そのため“同様の主旨であるが書きぶりが異なる部分”について、記載を統一化した。

(3) 法令に基づく新たな規定や指定等

① 自然公園法の目的に「生物多様性の保全」が追加されたことに伴う変更

平成 22 年に自然公園法の目的に「生物多様性の保全」が追加された。そのため、当国立公園においても生物多様性の保全を一層強化することとし、基本的な考え方や具体的方策を記載した。



【生物多様性保全のための基準の例】

「行為に際して極力外来種を持ち込まないよう、必要な措置を講ずること。」

(写真は、一面に繁茂する外来植物)

② 環境省の各種指針・ガイドラインの策定

自然公園における法面緑化指針、トレラン指針、光害防止ガイドライン、猛禽類保護のすすめ方（改定版）等、現計画策定以降に、環境省により新たな指針等が複数策定されている。これら指針等については、極力踏まえるよう記載した。

③ 戸隠重要伝統的建造物群保存地区の指定に伴う変更

平成 28 年度に戸隠地域の中社・宝光社地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されたことにともない、当該基準と齟齬がないよう、また国立公園であることが一層重伝建の景観づくりに資することができるよう、記載を検討した。



4. 地域意見交換会の開催

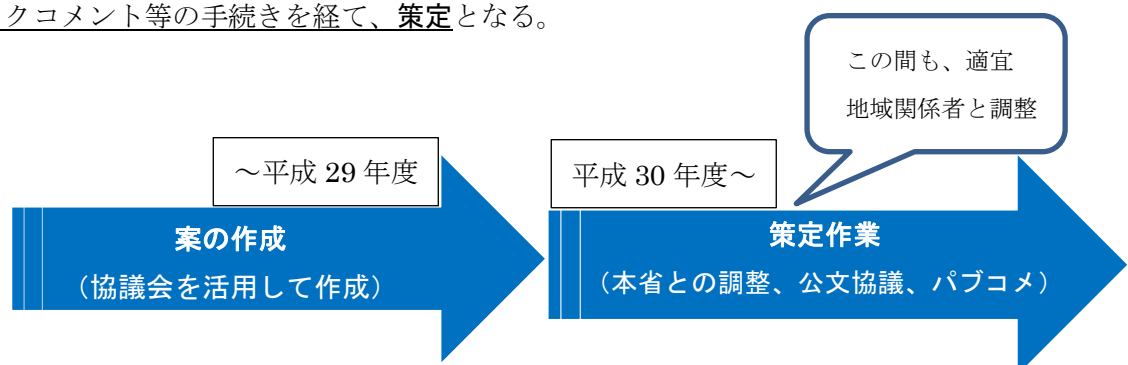
許認可等取扱方針の運用には地域住民の理解が欠かせないため、国立公園内の 4 地域で地域住民との意見交換会を実施した。出された意見の例は以下のとおり。

- ・ 修景伐採を促進したい。
- ・ 町の部分については、車を気にせず安心して歩ける道にしたい。
- ・ 電柱の地中化、民間看板の統一、照明の色の統一等、良好な町並みにしていきたい。
- ・ 国立公園内の住民は高齢化が進み数も減っている。生活に負担のない規制にならないか。
- ・ 当方針は分かりやすく地域へ周知するとともに、ルールを守る体制を構築して欲しい。

5. 今後の策定スケジュール

管理運営計画は、「環境省の地方事務所等が、原則として国立公園の総合型協議会を活用して作成する」とされているため、当協議会において検討を行ってきたところ。

今年度で案が完成し、来年度以降、本省との調整、自治体・国有林との公文協議及びパブリックコメント等の手続きを経て、策定となる。



平成 29 年度妙高戸隠連山国立公園連絡協議会活動報告（案）

平成 28 年度に策定された妙高戸隠連山国立公園の行動計画に基づき、平成 29 年度は以下の取組を実施した。総会・幹事会のほか、「歩く利用部会」「エコツアー部会」「情報発信部会」を設け、行動計画に位置付けられている具体的な取組を、協議会構成員をはじめ地域住民を含めた協働で行った。

注）本活動報告には、協議会負担金を活用して実施した事業のほか、協議会構成員が協力して実施した事業、協議会構成員から広く参加を募った事業が含まれる。

（１） 生物多様性の保全

○火打山におけるライチョウ保全に関する市民参加型の取組

H30：継続

ここ 30 年程度での植生の変化が認められた火打山において、ライチョウの生息環境を保全するため、試験的にイネ科除去作業を構成員等が協力して（有識者・妙高市・環境省・新潟県生態研究会）行った。市民参加型の取組を目指し、平成 28 年度の開始当初から長野県ライチョウサポーターズの協力を得ている。



実験区（右）と対象区（左）の様子



市民が参加した作業の様子

（２） 良好な景観形成

○管理運営計画書（案）の作成

H30：策定作業

景観づくりの地域ルールである、管理運営計画書の中の許認可等取扱方針について、幹事会における検討や地域説明会を経て作成した。作成にあたっては、これまで以上に景観向上に資する内容になるよう留意した。



地域意見交換会の様子

○「一目五山の絶景 32 選発掘フォトコンテスト」の実施（負担金活用事業）

当国立公園のビジョンに位置付けられている魅力「一目五山の風景」について、地域住民への周知及び一目五山の良好な眺望地点の発掘・資源化を目的とし、「一目五山の絶景 32 選発掘フォトコンテスト」を実施した。公募・協議会推薦をあわせ 140 件程度の応募があり、景観専門家である富山大学奥准教授（当協議会構成員）を審査委員長として、32 か所の「一目五山絶景スポット」を選定した。結果は冊子として印刷し、新たな観光資源としての活用を開始する。



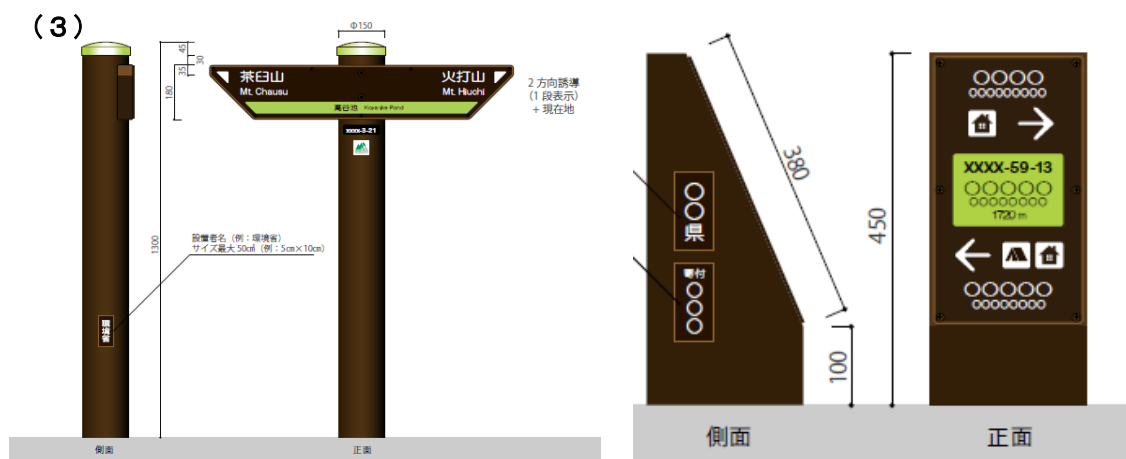
大賞：「収穫」（信濃町）



次点：「晩秋」（妙高市）

○サインの統一デザイン基準の作成

「妙高戸隠連山国立公園サイン統一デザイン基準（案）」を作成した。基準は、誘導標識を中心とし、適正な配置や 4 タイプの標準デザイン等を定めた。部会メンバーからの意見や、中部山岳国立公園等周辺の国立公園のデザインとの整合性を考慮し、国立公園としての一体感を持たせるデザインとした。



腕木タイプの誘導標識の標準デザイン

単柱（低）タイプの誘導標識の標準デザイン

(3) ロングトレイルの設置

3年後の開通に向け、当国立公園らしいロングトレイルのコンセプトを考えながら、メインルートを決めた。メインルートは、信越トレイルから野尻湖・いもり池・笹ヶ峰を通り塩の道に抜ける東西ルートと、長野駅から飯綱高原・戸隠を通り笹ヶ峰に到達する南北ルートの、「T字ルート」が提案された。検討にあたっては、協議会構成員のほか地元ガイドを中心として広く地域の方に声をかけ、協働体制の構築に努めた。



ワークショップによる検討の様子



<提案されたロングトレイルのコンセプト>

グループA：「信仰をつなぎなりわいたどる、山の道～五山トレイル～」

グループB：「妙高戸隠連山を見ながら歩こうトレイル」

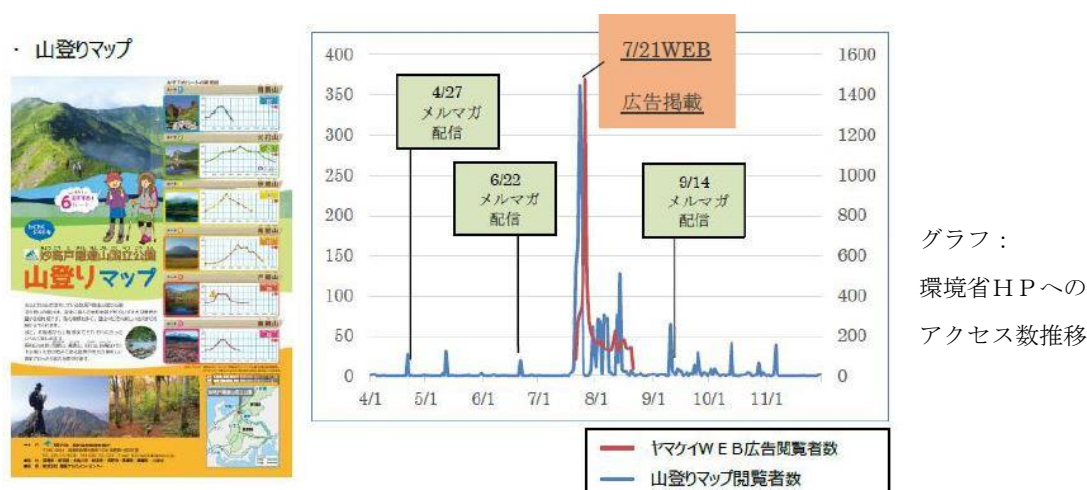
グループC：「境界を越えていくトレイル」

(4) 登山の活性化

○ヤマケイオンラインによるWEB広告（負担金活用事業）

H29 で終了

当国立公園への登山者の誘客を目的とし、夏季の1カ月間、山と溪谷社のヤマケイオンラインへ登山広告を、小谷村観光連盟が中心となって作成し掲載した。掲載した山岳は、雨飾山・火打山・妙高山・黒姫山・戸隠山・飯縄山の6座である。結果、山と溪谷社のフェイスブックの「いいね」数は上半期1位となった。また、掲載期間中（特に初期）はリンクを貼った環境省ホームページ（妙高戸隠連山国立公園山登りマップ）へのアクセスも急増し、一定の効果があつたと考えられる。ただ、閲覧数の増加は一時的で継続した掲載が必要であり、予算が限られていることから、今年度のみの実施とする。



○登山道整備に係る研究発表会の開催

当国立公園の登山道の整備状況について、東京農工大学の土屋教授の研究室において平成28年度に調査をしたため、その研究発表会を開催した。当研究は、登山道の過剰整備が問題視されたことから生じたレクリエーション空間の計画概念「ROS」に基づき行われたものであり、1本の登山ルートは同レベルの整備水準であることが望ましいとされている。調査の結果、1本の登山ルートであっても整備水準が異なるルートがあることが分かった。

○近自然工法による登山道整備講習会の実施

H30：管理体制の構築

飯縄山南登山道にて、合同会社「北海道山岳整備」より講師を招き、近自然工法による登山道整備講習会を、飯綱高原観光協会・北信森林管理署・長野市・環境省が協力して実施した。気候や地形、水の流れ等自然にあるものの構造を登山道整備に活かすという手法である。今後は、飯綱高原観光協会を中心に登山道の維持管理を実施するべく、関係機関等と協働して体制を整えるという方向性が示された。



作業前（深い浸食がみられる）



作業後（水の流れを考えながら、
浸食箇所を周囲の倒木や土石で埋めて施工）

○携帯トイレ普及のモデル事業の実施

雨飾地域及び戸隠地域において、小谷村及び長野市と環境省が協力して、携帯トイレ普及に係るモデル事業を実施した。雨飾地域では携帯トイレの自動販売機を設置するとともに、新たに携帯トイレブースを設置した。戸隠地域においては、自動販売機を設置できない場所での販売手法の検討を行った。



雨飾山に設置した携帯トイレブース



携帯トイレの自動販売機設置の試み

○ICT活用のモデル事業の実施

火打山において、ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）を活用してスマートフォンで利用可能なシステムの導入を行い、外国人を含めて誰でも容易に登山に関する情報を受け取ることができる体制の整備を行った。システム構築は環境省が行い、維持管理は妙高市が行う役割分担とした。



既存看板を活用して設置した機器

○様々な賞を受賞している先進地への視察の実施

「ツーリズム EXPO ジャパン」等多くの賞を受賞している、「天空の楽園～日本一の星空ツアー」実施主体の阿智昼神観光局（長野県阿智村）へ、12月に視察に行った。個性の出せる地域資源を見極めること、地域の関心を集めるために外部評価を高めること等ツアー構築の経緯を伺った。今後当国立公園でエコツーリズムを推進していくための参考としていく。



スターコンシェルジュによる星空の紹介



阿智昼神観光局代表取締役社長
白澤氏による講演

○伝統工芸（戸隠竹細工）を活用したモデルツアーの実施

地域資源を活用したツアー構築のモデルとして、戸隠中社竹細工生産組合を中心に、構成員（戸隠登山ガイド組合・長野市・環境省）が協力して、「戸隠竹細工イベント」を10月に実施した。戸隠竹細工の材料集めから作品完成までの一連の流れを体験するツアーである。「物作りの背景を知る」というストーリー性のあるツアーであり、参加者から好評であった。参加した職人からも好評であり、今後竹細工組合において継続して実施する予定。



切り出し作業の実演と解説



竹ひごでアクセサリ（ブレスレット）作り

○ガイドやエコツアーに関する実状把握

既存のガイド団体や関連施設など約 40 団体に対し、団体概要やツアー実施状況等のアンケート調査を行った。また、「地域の資源を活かした観光を進める上での課題」について、部会メンバーにより意見交換を行った。これらの結果をもとに、エコツーリズム推進にあたって必要な取組を、有識者の助言を得ながら今後検討していくこととする。

○農山漁村の地域資源を活用したツアー開発の勉強会（戸隠地域）

エコツーリズム大賞の受賞歴もある三重県伊勢市の「海島遊民くらぶ（有限会社オズ）」より講師を 3 月にお招きし、戸隠地域で講演会及び意見交換会を行うとともに、「かんじきツアー」をモデル実施し講師より助言をいただいた。



講師との意見交換会の様子



かんじきツアーの様子

○ジオガイドに対するガイディング技術の勉強会（糸魚川地域）

「片品・山と森の学校」より講師を 3 月にお招きし、ジオガイドに対しガイディング技術向上のための勉強会を開催した。

(6) 情報発信の強化

○当国立公園内の行事・ツアーの一元的情報発信（負担金活用事業）

H30：期間集中の情報発信、効果的な発信

春・夏・秋・冬の計4回、構成員等の実施する行事・ツアーを募集して妙高市がとりまとめ、一覧表とした。一覧表は環境省ホームページに掲載したほか、発信方法の試行として、負担金を活用してヤマケイのメルマガで春・夏・秋・冬の計4回配信した。また、自治体広報誌への掲載のほか、秋号は環境省予算で4,000部、冬号は負担金と環境省予算を併せ1万5千部印刷し、構成員の関連施設やオフィシャルパートナー企業等で配布し、集客を図った。



○ヤマケイオンラインによるWEB広告（負担金活用事業）（再掲）

山と溪谷社のヤマケイオンラインへ、登山広告を掲載。

○国立公園の魅力的な写真素材の一元的管理

各構成員が所持している著作権に問題がない魅力的な写真等を収集し、環境省ホームページのフォトアルバムで一元的に管理する体制を整えた。

○国立公園オフィシャルパートナーシップの活用

国立公園オフィシャルパートナーシップの各企業と調整を行い、東日本高速道路株式会社及び中日本高速道路株式会社には、平成27年度作成の山登りマップ・平成28年度作成の総合ガイドブック・今年度作成の行事一覧表について、設置に協力いただいた。

特に旅行会社やアウトドア関連企業は当国立公園のロングトレイルやエコツアーの取組等に関心を持っており、今後の連携が期待される。

平成29年度収支決算書（見込み）

資料2②

歳入総額	1,129,713 円
歳出総額	1,129,157 円
差引総額	556 円（平成30年度へ繰り越し）

1. 歳入の部 (単位：円)

科目	予算額	決算額	増減 (予算－決算)	摘要
1 負担金	715,000	715,000	0	6市町村の合計 (ベース5万円＋国立公園面積比率割)
2 補助金	0	0	0	
3 繰越金	414,706	414,706	0	
4 その他	0	7	△7	受取利子
合計	1,129,706	1,129,713	△7	

2. 歳出の部

科目		予算額	決算額	増減 (予算－決算)	摘要
1 会議費		0	0	0	協議会運営費は、環境省負担
2 事務費		4,000	3,456	544	郵送料、振込手数料等
3 事業費	業務費	400,000	400,000	0	一目五山フォトコンテスト ・応募チラシ印刷費（¥93,420） ・景品購入費、公表用チラシ印刷費（¥306,585）
	印刷製本費	80,000	80,000	0	行事の一元的発信に係る印刷費（¥80,000）
	雑役務費	620,000	619,995	5	・行事の一元的発信に係るメルマガ掲載費（¥119,996） ・登山に係るWEB広告掲載費（¥499,999）
4 予備費		25,706	25,706	0	一目五山フォトコンテストに係る 公表用ポスター等印刷費
合計		1,129,706	1,129,157	549	

【参考】
負担金以外の関連経費

組織	予算額	決算額	増減 (予算－決算)	備考
環境省	2,000,000	3,000,000	△1,000,000	金額は概要である。 ・サイン統一基準策定に係る経費 ・エコツーリズムに係る経費（情報収集、勉強会、視察等）等 ・情報発信に係る経費（チラシ印刷、ガイドブック増刷等）

※その他、ライチョウ保全、登山道整備講習会、携帯トイレモデル事業、会議運営等へも拠出。

平成 29 年度妙高戸隠連山国立公園連絡協議会活動報告（案）

平成 28 年度に策定された妙高戸隠連山国立公園の行動計画に基づき、平成 29 年度は以下の取組を実施した。総会・幹事会のほか、「歩く利用部会」「エコツアー部会」「情報発信部会」を設け、行動計画に位置付けられている具体的な取組を、協議会構成員をはじめ地域住民を含めた協働で行った。

注）本活動報告には、協議会負担金を活用して実施した事業のほか、協議会構成員が協力して実施した事業、協議会構成員から広く参加を募った事業が含まれる。

（１） 生物多様性の保全

○火打山におけるライチョウ保全に関する市民参加型の取組

H30：継続

ここ 30 年程度での植生の変化が認められた火打山において、ライチョウの生息環境を保全するため、試験的にイネ科除去作業を構成員等が協力して（有識者・妙高市・環境省・新潟県生態研究会）行った。市民参加型の取組を目指し、平成 28 年度の開始当初から長野県ライチョウサポーターズの協力を得ている。



実験区（右）と対象区（左）の様子



市民が参加した作業の様子

（２） 良好な景観形成

○管理運営計画書（案）の作成

H30：策定作業

景観づくりの地域ルールである、管理運営計画書の中の許認可等取扱方針について、幹事会における検討や地域説明会を経て作成した。作成にあたっては、これまで以上に景観向上に資する内容になるよう留意した。



地域意見交換会の様子

○「一目五山の絶景 32 選発掘フォトコンテスト」の実施（負担金活用事業）

当国立公園のビジョンに位置付けられている魅力「一目五山の風景」について、地域住民への周知及び一目五山の良好な眺望地点の発掘・資源化を目的とし、「一目五山の絶景 32 選発掘フォトコンテスト」を実施した。公募・協議会推薦をあわせ 140 件程度の応募があり、景観専門家である富山大学奥准教授（当協議会構成員）を審査委員長として、32 か所の「一目五山絶景スポット」を選定した。結果は冊子として印刷し、新たな観光資源としての活用を開始する。



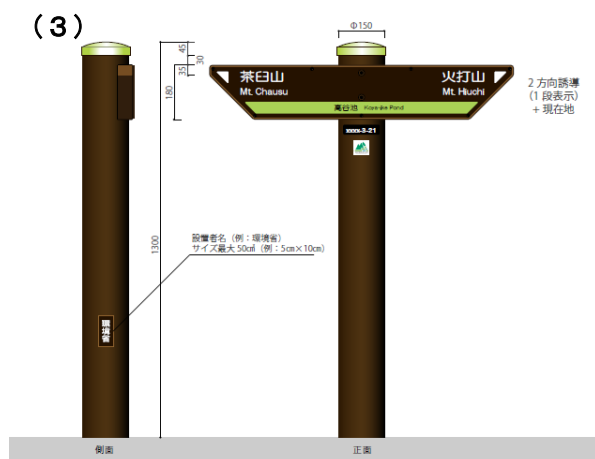
大賞：「収穫」（信濃町）



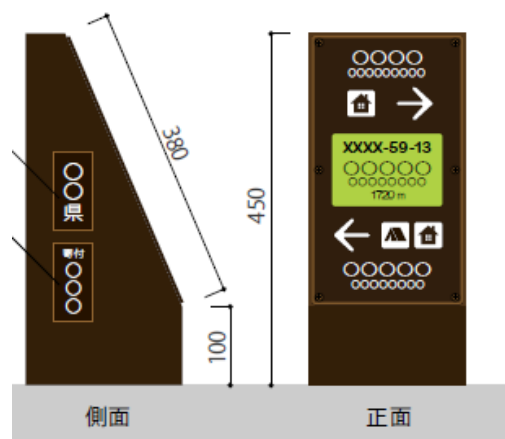
次点：「晩秋」（妙高市）

○サインの統一デザイン基準の作成

「妙高戸隠連山国立公園サイン統一デザイン基準（案）」を作成した。基準は、誘導標識を中心とし、適正な配置や4タイプの標準デザイン等を定めた。部会メンバーからの意見や、中部山岳国立公園等周辺の国立公園のデザインとの整合性を考慮し、国立公園としての一体感を持たせるデザインとした。



腕木タイプの誘導標識の標準デザイン



単柱（低）タイプの誘導標識の標準デザイン

(3) ロングトレイルの設置

3年後の開通に向け、当国立公園らしいロングトレイルのコンセプトを考えながら、メインルートを決めた。メインルートは、信越トレイルから野尻湖・いもり池・笹ヶ峰を通り塩の道に抜ける東西ルートと、長野駅から飯綱高原・戸隠を通り笹ヶ峰に到達する南北ルートの、「T字ルート」が提案された。検討にあたっては、協議会構成員のほか地元ガイドを中心として広く地域の方に声をかけ、協働体制の構築に努めた。



ワークショップによる検討の様子



<提案されたロングトレイルのコンセプト>

グループA：「信仰をつなぎなりわいたどる、山の道～五山トレイル～」

グループB：「妙高戸隠連山を見ながら歩こうトレイル」

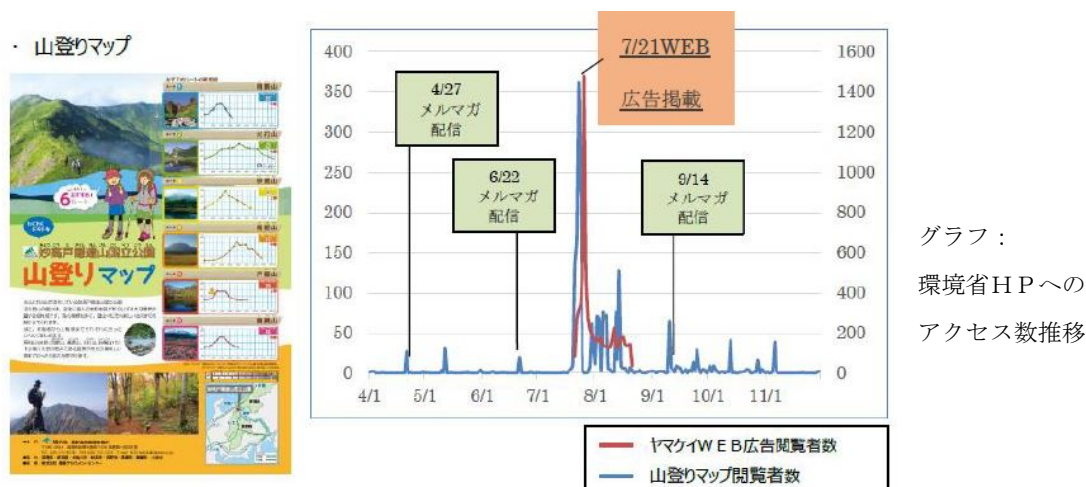
グループC：「境界を越えていくトレイル」

（４） 登山の活性化

○ヤマケイオンラインによるWEB広告（負担金活用事業）

H29 で終了

当国立公園への登山者の誘客を目的とし、夏季の1カ月間、山と溪谷社のヤマケイオンラインへ登山広告を、小谷村観光連盟が中心となって作成し掲載した。掲載した山岳は、雨飾山・火打山・妙高山・黒姫山・戸隠山・飯縄山の6座である。結果、山と溪谷社のフェイスブックの「いいね」数は上半期1位となった。また、掲載期間中（特に初期）はリンクを貼った環境省ホームページ（妙高戸隠連山国立公園山登りマップ）へのアクセスも急増し、一定の効果があつたと考えられる。ただ、閲覧数の増加は一時的で継続した掲載が必要であり、予算が限られていることから、今年度のみの実施とする。



○登山道整備に係る研究発表会の開催

当国立公園の登山道の整備状況について、東京農工大学の土屋教授の研究室において平成28年度に調査をしたため、その研究発表会を開催した。当研究は、登山道の過剰整備が問題視されたことから生じたレクリエーション空間の計画概念「ROS」に基づき行われたものであり、1本の登山ルートは同レベルの整備水準であることが望ましいとされている。調査の結果、1本の登山ルートであっても整備水準が異なるルートがあることが分かった。

○近自然工法による登山道整備講習会の実施

H30：管理体制の構築

飯縄山南登山道にて、合同会社「北海道山岳整備」より講師を招き、近自然工法による登山道整備講習会を、飯綱高原観光協会・北信森林管理署・長野市・環境省が協力して実施した。気候や地形、水の流れ等自然にあるものの構造を登山道整備に活かすという手法である。今後は、飯綱高原観光協会を中心に登山道の維持管理を実施するべく、関係機関等と協働して体制を整えるという方向性が示された。



作業前（深い浸食がみられる）



作業後（水の流れを考えながら、
浸食箇所を周囲の倒木や土石で埋めて施工）

○携帯トイレ普及のモデル事業の実施

雨飾地域及び戸隠地域において、小谷村及び長野市と環境省が協力して、携帯トイレ普及に係るモデル事業を実施した。雨飾地域では携帯トイレの自動販売機を設置するとともに、新たに携帯トイレブースを設置した。戸隠地域においては、自動販売機を設置できない場所での販売手法の検討を行った。



雨飾山に設置した携帯トイレブース



携帯トイレの自動販売機設置の試み

○ICT活用のモデル事業の実施

火打山において、ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）を活用してスマートフォンで利用可能なシステムの導入を行い、外国人を含めて誰でも容易に登山に関する情報を受け取ることができる体制の整備を行った。システム構築は環境省が行い、維持管理は妙高市が行う役割分担とした。



既存看板を活用して設置した機器

○様々な賞を受賞している先進地への視察の実施

「ツーリズム EXPO ジャパン」等多くの賞を受賞している、「天空の楽園～日本一の星空ツアー」実施主体の阿智昼神観光局（長野県阿智村）へ、12月に視察に行った。個性の出せる地域資源を見極めること、地域の関心を集めるために外部評価を高めること等ツアー構築の経緯を伺った。今後当国立公園でエコツーリズムを推進していくための参考としていく。



スターコンシェルジュによる星空の紹介



阿智昼神観光局代表取締役社長
白澤氏による講演

○伝統工芸（戸隠竹細工）を活用したモデルツアーの実施

地域資源を活用したツアー構築のモデルとして、戸隠中社竹細工生産組合を中心に、構成員（戸隠登山ガイド組合・長野市・環境省）が協力して、「戸隠竹細工イベント」を10月に実施した。戸隠竹細工の材料集めから作品完成までの一連の流れを体験するツアーである。「物作りの背景を知る」というストーリー性のあるツアーであり、参加者から好評であった。参加した職人からも好評であり、今後竹細工組合において継続して実施する予定。



切り出し作業の実演と解説



竹ひごでアクセサリ（プレスレット）作り

○ガイドやエコツアーに関する実状把握

既存のガイド団体や関連施設など約 40 団体に対し、団体概要やツアー実施状況等のアンケート調査を行った。また、「地域の資源を活かした観光を進める上での課題」について、部会メンバーにより意見交換を行った。これらの結果をもとに、エコツーリズム推進にあたって必要な取組を、有識者の助言を得ながら今後検討していくこととする。

○農山漁村の地域資源を活用したツアー開発の勉強会（戸隠地域）

エコツーリズム大賞の受賞歴もある三重県伊勢市の「海島遊民くらぶ（有限会社オズ）」より講師を 3 月にお招きし、戸隠地域で講演会及び意見交換会を行うとともに、「かんじきツアー」をモデル実施し講師より助言をいただいた。



講師との意見交換会の様子



かんじきツアーの様子

○ジオガイドに対するガイディング技術の勉強会（糸魚川地域）

「片品・山と森の学校」より講師を 3 月にお招きし、ジオガイドに対しガイディング技術向上のための勉強会を開催した。

(6) 情報発信の強化

○当国立公園内の行事・ツアーの一元的情報発信（負担金活用事業）

H30：期間集中の情報発信、効果的な発信

春・夏・秋・冬の計4回、構成員等の実施する行事・ツアーを募集して妙高市がとりまとめ、一覧表とした。一覧表は環境省ホームページに掲載したほか、発信方法の試行として、負担金を活用してヤマケイのメルマガで春・夏・秋・冬の計4回配信した。また、自治体広報誌への掲載のほか、秋号は環境省予算で4,000部、冬号は負担金と環境省予算を併せ1万5千部印刷し、構成員の関連施設やオフィシャルパートナー企業等で配布し、集客を図った。



○ヤマケイオンラインによるWEB広告（負担金活用事業）（再掲）

山と溪谷社のヤマケイオンラインへ、登山広告を掲載。

○国立公園の魅力的な写真素材の一元的管理

各構成員が所持している著作権に問題がない魅力的な写真等を収集し、環境省ホームページのフォトアルバムで一元的に管理する体制を整えた。

○国立公園オフィシャルパートナーシップの活用

国立公園オフィシャルパートナーシップの各企業と調整を行い、東日本高速道路株式会社及び中日本高速道路株式会社には、平成27年度作成の山登りマップ・平成28年度作成の総合ガイドブック・今年度作成の行事一覧表について、設置に協力いただいた。

特に旅行会社やアウトドア関連企業は当国立公園のロングトレイルやエコツアーの取組等に関心を持っており、今後の連携が期待される。

平成29年度収支決算書（見込み）

資料2②

歳入総額	1,129,713 円
歳出総額	1,129,157 円
差引総額	556 円（平成30年度へ繰り越し）

1. 歳入の部 (単位：円)

科目	予算額	決算額	増減 (予算－決算)	摘要
1 負担金	715,000	715,000	0	6市町村の合計 (ベース5万円＋国立公園面積比率割)
2 補助金	0	0	0	
3 繰越金	414,706	414,706	0	
4 その他	0	7	△ 7	受取利子
合計	1,129,706	1,129,713	△ 7	

2. 歳出の部

科目		予算額	決算額	増減 (予算－決算)	摘要
1 会議費		0	0	0	協議会運営費は、環境省負担
2 事務費		4,000	3,456	544	郵送料、振込手数料等
3 事業費	業務費	400,000	400,000	0	一目五山フォトコンテスト ・応募チラシ印刷費（¥93,420） ・景品購入費、公表用チラシ印刷費（¥306,585）
	印刷製本費	80,000	80,000	0	行事の一元的発信に係る印刷費（¥80,000）
	雑役務費	620,000	619,995	5	・行事の一元的発信に係るメルマガ掲載費（¥119,996） ・登山に係るWEB広告掲載費（¥499,999）
4 予備費		25,706	25,706	0	一目五山フォトコンテストに係る 公表用ポスター等印刷費
合計		1,129,706	1,129,157	549	

【参考】
負担金以外の関連経費

組織	予算額	決算額	増減 (予算－決算)	備考
環境省	2,000,000	3,000,000	△1,000,000	金額は概要である。 ・サイン統一基準策定に係る経費 ・エコツーリズムに係る経費（情報収集、勉強会、視察等）等 ・情報発信に係る経費（チラシ印刷、ガイドブック増刷等）

※その他、ライチョウ保全、登山道整備講習会、携帯トイレモデル事業、会議運営等へも拠出。

平成30年度妙高戸隠連山国立公園連絡協議会活動計画（案）

平成27年3月の妙高戸隠連山国立公園の指定を受け、平成27～28年度は情報発信を重点的に行うとともに、協議会設立やビジョン・行動計画の策定等、協働体制の構築を行った。平成29年度は、行動計画に基づき各種取組を開始したところである。平成30年度は、行動計画の目標実現に向け、平成29年度の取組結果を踏まえて本活動計画を、協議会構成員の協働により実施する。

（1）生物多様性の保全

- ◆市民・研究者・行政が一体となって保全活動を実施
- ◆生物多様性を保全し、かつ適正な利用の推進

○火打山におけるライチョウ保全に関する取組

火打山における協働型環境保全活動の3年目として、ライチョウの生息地保全のために年2回のイネ科植物の除去試験を行う。また、これまでの試験結果を評価し、今後の保全対策について検討する。さらに今後の取組のために構成員等が協力して（有識者・妙高市・環境省・新潟県生態研究会）、市民参加型の体制を構築する。

（2）良好な景観形成

- ◆当国立公園らしい良好な景観が地域資源として適切に保全活用
⇒「景観でメシが食えている状態」へ

○管理運営計画策定に向けた作業

環境省本省にて策定作業（パブリックコメント等）を実施。その結果を踏まえた協議会構成員との調整及び関係機関への正式協議等にご協力願いたい。

○「一目五山の絶景32選」の活用

- ・平成29年度に選定した「一目五山の絶景32選」の選定場所の周知、活用、定着を図る。
具体的には「一目五山」を表すマークの作成等を行う。
- ・選定場所周辺の地域資源について情報収集を行い、エコツアーの実施及びロングトレイル設定の材料とする。また、景観を保全する上での課題を整理し、選定場所をモデルケースに良好な景観の保全及び活用の方策を検討する。

○サイン統一基準の完成

平成29年度に作成した案について、構成員の意見を踏まえてより洗練させるとともに中部山岳国立公園の基準の作成状況を踏まえ、整合性を考慮した上で、完成させる。

(3) ロングトレイルの設置

- ◆当国立公園を“つなぐ”ことを目的として協働体制を構築
- ◆地域の滞在時間の延長、広域的な周遊利用の増加、インバウンドの増加等
⇒国立公園を通した地域活性化

○コースやサインの検討

- ・構成員による全区間の踏査及びモデルツアーを実施し、詳細なコースを決定する。
- ・決定したコースの特徴を踏まえ、ロングトレイルの名称及びマークを決定する。
- ・ロングトレイル開通にあたり必要となるサイン類について、デザインや予算確保の方法、設置主体や管理方法等を検討する。
- ・コースやサインの設置箇所について、土地所有者・管理者等と調整し、必要に応じて各種手続きを開始する。

○管理運営体制の検討

- ・運営主体や拠点施設、ガイドのあり方等、管理運営体制に係る事項を検討する。
- ・コース周辺の民間施設等との連携を検討する。
- ・マップやホームページ等、ロングトレイルの情報発信の検討及び作成を行う。

【平成 30 年度ロングトレイルの作業スケジュール概要（予定）】

踏査の実施（雪解け後～6月頃）

良いコースを検討するため、部会メンバーにより全区間の踏査を実施する。



モデルツアーの実施（夏～秋頃）

ロングトレイルへの造詣が深い方・旅行会社（オフィシャルパートナー企業の活用を予定）・一般利用者等からの意見を収集する。



コースの決定（秋～冬頃）

踏査及びモデルツアーを踏まえてコースを議論し、決定できる区間の詳細なコースを決定する。また、ロングトレイルの名称やマークも検討する。



各種調整（冬～）

コースやサインの設置箇所について、土地所有者・管理者等との必要な手続き実施する。



コース整備・管理運営体制の構築

平成 31 年度開通を目指す

＜平成 30 年度＞

- ・コースの決定
- ・サインのあり方の検討
- ・マップやホームページ等情報発信手法の検討
- ・管理運営体制の検討

＜平成 31 年度～＞

- ・サインの整備等ハード整備
- ・情報発信等ソフト整備
- ・管理運営体制の構築

(4) 登山の活性化

- ◆安全な登山利用の推進
- ◆登山道の維持管理体制の構築

○登山道維持管理体制の構築、整備技術の向上

飯縄山南登山道については、地域で登山道を維持管理する体制を構築する。平成 29 年度に引き続き、近自然工法による登山道整備学習会等を開催する。

○課題解決に向けた検討

管理者不明確・人手不足・後継者不足・資金不足の登山道の存在、整備水準や整備方法に迷う登山道の存在等、当国立公園の登山道が抱える問題は登山ルートにより様々である。複数市町村にまたがる登山道の管理手法の検討や利用者参加型の管理体制の構築等を検討する。

(5) エコツアーの活性化

- ◆地域資源の保全と利用の両立
- ◆滞在時間の延長、地域のブランド化

○地域資源の掘り起こし

自然や歴史・文化の勉強会やモデルツアーを適宜開催することで、地域資源の掘り起こしや活用方法の検討を行い、エコツアーの商品開発につなげる。

(6) 情報発信の強化

○国立公園夏季イベント（仮称）の実施

情報発信部会の構成員からの提案で、国立公園夏季イベント（仮）を実施する。

各エリアが持つ魅力を同時期に集中して発信することで、国立公園への来訪動機となること及び周遊利用を促進することを目的とする。具体的には、各構成員は各地域の擁する魅力を体験できるイベントを地域ごとに開催し、情報を一元的に発信する。

○ツアー等の一元発信の実施

協議会構成員及びその関係者が実施するツアーや行事について、HP の活用等効果的な一元的な発信方法の検討及び実施をする。

○国立公園オフィシャルパートナーシップの活用

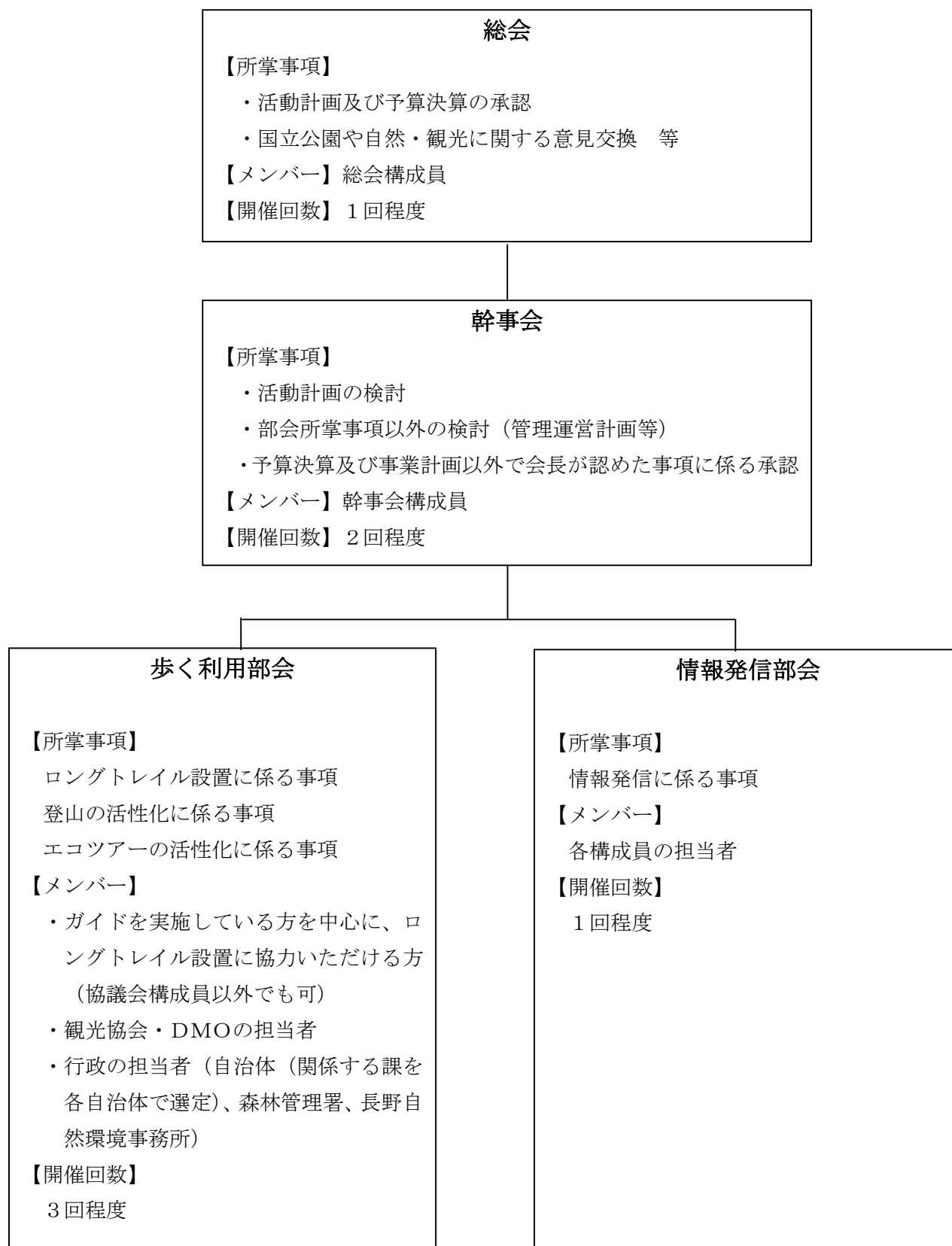
国立公園オフィシャルパートナーシップを活用し、情報発信やロングトレイル・エコツアーの商品化等に協力いただける企業との関係性を築く。

○各構成員による国立公園の積極的な発信

各構成員が、国立公園名を使用した広報に積極的に努めるとともに、協議会の各種取組について積極的に情報発信を行う。

平成 30 年度の部会の設置について（素案）

平成 30 年度は総会及び幹事会の下に 2 つの部会を設置し、活動計画を実践する。



平成30年度収支予算書（見込み）

資料3②

歳入総額	715,556 円
歳出総額	715,556 円
差引総額	0 円

1. 歳入の部 (単位：円)

科目	本年度予算額	摘要
1 負担金	715,000	6 市町村の合計 (ベース 5 万円＋国立公園面積比率割)
2 補助金	0	
3 繰越金	556	
4 その他	0	
合計	715,556	

2. 歳出の部

科目	本年度予算額	摘要
1 会議費	0	協議会運営費は、環境省負担
2 事務費	2,000	郵送料、振込手数料等
3 事業費	700,000	・ロングトレイルに係る経費【50万円】 (モデルツアー、マップ作成等) ・情報発信に係る経費 (国立公園夏季イベント(仮称)に係る経費等【20万円】)
4 予備費	13,556	
合計	715,556	

注) 会長の決するところにより、科目間の流用をすることができる。

【参考】市町村以外の経費
(負担金として支出できないことから、参考として記載する)

1. 歳入の部

組織	本年度予算額	備考
環境省	2,000,000	予定。なお、協議会運営費は別途負担予定。

2. 歳出の部

組織	項目	本年度予算額	備考
環境省	事業費	2,000,000	・ロングトレイルのサインデザインの検討 ・エコツアーリズムに係る取組 ・一目五山の絶景32選の活用 等

(参考) 負担金について

(単位：円)

市町村名	負担金額
糸魚川市	105,000
妙高市	215,000
長野市	155,000
信濃町	100,000
飯綱町	55,000
小谷村	85,000
小計	715,000

※1 負担金は計70万円を目標とし、「ベース5万円＋国立公園面積比率割」により配分。

※2 環境省及び関係県は、「負担金」としての拠出はできないため、それぞれの支出方法による。

平成 29 年度妙高戸隠連山国立公園連絡協議会 総会 議事概要

1. 日時：平成 30 年 3 月 22 日(木) 15:00～17:15

2. 場所：長野芸術館 アクトスペース

3. 議事

妙高戸隠連山国立公園の管理運営計画（許認可等取扱方針）、本協議会の、平成 29 年度活動報告（案）、平成 29 年度歳入歳出決算（案）、平成 30 年度活動計画（案）、平成 30 年度歳入歳出予算（案）、役員選出について構成員に諮り、賛成多数により承認された。最後に、構成員による意見交換を行った。

（１）開会

（事務局：長野自然環境事務所 中山隆治所長）

- ・ 平成 29 年度は行動計画を実践していく初年であり、構成員の皆さまにはこの総会に至るまで、幹事会や部会出席等、お忙しい中お時間をさいていただき、大変感謝している。
- ・ また、許認可のローカルルールである「許認可等取扱方針案」についても議論してきた。より良い実効性のあるルールにしていきたい。
- ・ 本日の会議では、許認可等取扱方針および平成 29 年度活動報告（案）・歳入歳出決算（案）、平成 30 年度活動計画（案）・歳入歳出予算（案）について議論いただきたい。

（２）議事

①第 1 号議案【妙高戸隠連山国立公園管理運営計画（許認可等取扱方針）について】

→全会一致で承認。

- ・ 森林管理署が進める治山事業の目的と国立公園の保護や利用の目的とが両立できるような適切な取扱方針が策定されるよう、長野自然環境事務所と協力していきたい。
- ・ 資料 1 は写真等も掲載され、非常に分かりやすい資料である。このような資料を利用者や地域に積極的に示していくことが重要である。
- ・ 取扱方針案の今後のスケジュールについて、森林管理署および各自治体には来年度以降に公文で協議を行うので、協力いただきたい。

②第 2 号議案【①平成 29 年度活動報告（案）・②平成 29 年度歳入歳出決算（案）】

→全会一致で承認。

- ・ 平成 29 年度は実に様々な取組を行った。これからも着実に様々な取組を一步一步実施していきたい。

③第 3 号議案【①平成 30 年度活動計画（案）・②平成 30 年度歳入歳出予算（案）】

→全会一致で承認。

- ・ 「景観でメシが食えている状態」の意図するところは、景観をもう少し積極的に地域の資源と結びつけてブランドにしていきたいという思いからである。
- ・ 当国立公園は自然だけでなく、生活の営みとつなげていくことが重要。お客様を観光地としてお迎えするためには、「良好な景観」作りをすべき。

- ・ エコツーリズムに関連する取組として、商品開発とともに体制づくりの強化についても検討いただきたい。
- ・ 当国立公園には多数のエコツアーがあることが把握でき、その発信とともに、エコツアーではない普通の観光をエコツアーに近づけていくことが重要。
- ・ 当協議会の活動を広げていくために、平成 30 年度に幹事会で負担金の見直しの議論をしていただきたい。

② 4 号議案【役員選出】

→協議会会長の選出は、事務局提案通り長野自然環境事務所中山隆治所長が継続することで全会一致で承認。

→副会長は長野市加藤久雄市長および妙高市入村明市長が継続することで全会一致で承認。

（４）意見交換

今後の国立公園への期待、自分たちの行動への意気込み、今年度の取り組みの中で、特に共有しておきたいことについて意見交換した。

所属・氏名	ご意見
妙高観光推進協議会 竹田幸則氏	・ 3月に環境省より報道発表のあった国立公園の外国人入込客数について、当国立公園は昨年度比で 116%増と大きく伸びた。詳しい情報について知りたい →後日、詳細を調査しご報告するが、インバウンド関係の予算どりは積極的に行っていきたい。（環境省）
長野市環境部 部長 井上隆文氏	・ 当国立公園独自で、ローカルパートナーシップの仕組みを構築してはどうか。 →幹事会での議論を予定する。（環境省）

（５）閉会

<ご挨拶>

妙高市長 入村明氏

- ・ 妙高戸隠連山国立公園を通じて、地域が一つの大きなリージョンと捉えられることを期待。
- ・ 今後は皆で協力して国立公園を“本物”にしていきたい。

4. 出席者

機関・団体等	団体名・部課名	役職	氏名	備考
有識者	東京農工大学大学院 農学研究院	教授	土屋 俊幸	
	文教大学 国際学部	教授	海津 ゆりえ	
	富山大学 芸術文化学部	准教授	奥 敬一	
エコツーリズム関係者	一般社団法人 新潟アウトドア企画		長野 康之	
	NPO 法人 GOZAN 自然学校	代表	目須田 修	欠席
地域振興関係者	一般社団法人 長野市開発公社	企画営業課長	小柳 司	代理出席
	小谷温泉旅館組合	代表	山田 誠司	
博物館関係者	糸魚川フォッサマグナミュージアム	館長	大沢 喜昭	欠席
	野尻湖ナウマンゾウ博物館	館長	近藤 洋一	
山岳関係者	高谷池ヒュッテ	元管理人	築田 博	欠席
	戸隠登山ガイド	組合長	吉本 照久	
観光協会・DMO	糸魚川市観光協会	会長	山下 建夫	欠席
	妙高観光推進協議会		竹田 幸則	代理出席
	戸隠観光協会	会長	極意 憲雄	
	飯綱高原観光協会	会長	西澤 一幸	
	信州しなの町観光協会	会長	砂山 聡	欠席
	飯綱町観光協会	会長	古木 惣一郎	
	小谷村観光連盟	会長	松本 久志	
市町村	糸魚川市	産業部長	斉藤 隆一	代理出席
	妙高市	市長	入村 明	
	長野市	環境部長	井上 隆文	代理出席
	信濃町	町長	横川 正知	
	飯綱町	町長	峯村 勝盛	欠席
	小谷村	村長	松本 久志	
県	新潟県県民生活・環境部	環境企画課係長	土屋 哲	代理出席
	長野県環境部	部長	関 昇一郎	
林野庁	上越森林管理署	署長	小松 敬	
	北信森林管理署	署長	川村 一憲	
	中信森林管理署	署長		欠席
国土交通省	北陸信越運輸局観光部 ※オブザーバー	長野運輸支局長	松本 昭弘	
環境省	長野自然環境事務所	所長	中山 隆治	